

第25回NIE全国大会 東京大会
ともに生きる 新聞でつながる
(2020年11月22日 オンライン開催)
報告書

広島大学附属中・高等学校
鶴田 輝樹先生

2020年の第25回NIE全国大会—ともに生きる 新聞でつながる—は、コロナ禍において、ライブ配信による全体会、オンデマンド配信による分科会の形態がとられた。例年とは違う形での大会実施ではあったが、その中で各学校とも創意工夫を凝らし、示唆に富むNIE実践が数多く見られた。

NIE実践は、関口修司氏の提唱する枠組みを参考にすると大きく次の三つの活動としてまとめられる。

- 新聞機能学習：新聞をメディアとしてとらえ、その特徴や制作の仕組みなどを学ぶ。
- 新聞制作学習：学校での出来事や、学習したこと、調べたことなどを新聞にまとめる。
- 新聞活用学習：新聞を授業の副教材に使うなどして、言語活動の充実に役立てる。

今大会で実践発表のあった中学校・高等学校の計6校について、その枠組みをもとに分類すると以下の表のようになる。

学校	学年	学習活動	指導上の留意点	枠組み	
中学校	橋世 希谷 望区 中 学立 校船	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの新型コロナウイルスによる社会の変化と自分の気持ちの変化を振り返る。 ・新型コロナウイルスと自分のこれからのあり方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済新聞電子版やプリント資料を活用する。 ・演劇(ロールプレイ)を通じて医療従事者や感染者に対する態度、差別や偏見が発生する原因とその予防について考えさせる。 	新聞活用学習
	多世 見谷 中 学立 校他	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省が出したスマホ容認のニュースについて知る。 ・「スマホの学校への持ち込み」について賛成か反対かを個人で考え、その理由をクラゲチャートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド等で内容をコンパクトに説明する。 ・読売新聞の2つの立場の投書を読ませ、賛成の立場と反対の立場の意見を振り返らせる。 	新聞活用学習
	町 寺 中 学立 校真 光	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の写真を見て俳句の題材を探す。 ・題材の写真から感じたことを広げて俳句を創作する。 ・創作した俳句を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真から感じたことや、読み取ったことが写真の内容から大きくそれていないか助言する。 ・俳句の中七下五や、上五中七を新聞の内容にそった表現にするとといった助言を行う。 	新聞活用学習
高等学校	商東 業京 高都 等立 学第 校三	第2・3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が新聞スクラップを行う。 ・身につけた基礎的な新聞の読み方を利用して自分の感想・意見だけでなく、周囲の人の意見も聞いて自分の意見を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルのNIE通信を活用する。 ・新聞コンクールを活用する。 ・生徒の発達段階に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から話題を決めさせる。 	新聞機能学習 新聞制作学習 新聞活用学習
	東 京 都 立 新 宿 高 等 学 校	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代文B」で「戦争」に関する評論を扱う。 ・ワークシートを使用し、SDGsについて、「経済」「環境」「社会」の観点から考察・分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択科目「日本語」において中高生向け新聞を活用する。 ・長期休業中、新聞コンクールに取り組ませる。 ・修学旅行の事前学習として新聞を活用する。 	新聞制作学習 新聞活用学習
	東 京 都 立 荻 窪 高 等 学 校	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅学習において、民法改正のポイントについて、新聞記事を用いて理解し、その良い点や問題点を考える。 ・新聞記事を読み、15歳と102歳の方の意見を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を踏まえて中学生の悩みに答え、自己の経験を踏まえたアドバイスをする。 ・ワークシートを用いて、これまでの学習内容を踏まえてどのような大人になりたいかを考えさせる。 	新聞活用学習

これらの実践の成果と課題についてまとめると次のとおりである。成果としては、新聞の持つ教育的効果を十分に引き出した上で、中学・高校ともに、ローカルな問題からグローバルな問題まで、生徒の認識を深め、生徒が多面的・多角的な視点をもつことができている。一方で、課題としては、NIE 実践が投げ入れ的に行われ、教科横断的な側面があまり見られなかった。教師が長期的な学習のねらいを明確にした上で、単元・授業内容を熟考し、新聞の計画的な活用が期待される。

広島国際学院中学校・高等学校 為重 慎一先生

1：はじめに～学びの日常を見つめ直し、創意工夫することの大切さを感じる大会

2020年は、東京オリンピックの開催、共通テスト導入に伴う新大学入試の実施など、新たな可能性を見出す1年になると期待されていた。ところが未曾有の感染症問題により、歴史上大きな痕跡を残す社会的混乱を私たちは経験することとなった。

本来、NIE東京大会も、多様な学び、一人ひとりの価値観が重視される現代社会にあって、子どもたちが個の能力を引き出し、併せて他者とのつながりを大切に、皆で支える社会を築いていくかを新聞から見出す大会になるはずであった。だが、未曾有の出来事によってその取り組みは変更を余儀なくされることとなった。これまでの何ら制約のない、自由かつ保護された教育環境がどれだけ尊いものであったか、仲間とともに生きることのできる日常の風景を改めて見つめ直すことを私たちは考えるきっかけになったと思われる。今大会を視聴するにあたって、当たり前の日常を尊び、制約の中にあっても、学びを創意工夫することで新たな出会い、発見があることを意識してもらいたい。

2：各分科会における発表校の見どころ

前述した通り、今大会は「制約された社会」の中で、新聞をとおした生き方、つながりを考えることにあった。私たちが当たり前と思う、日常生活に制約が生じている今、これまでのNIE実践が（NIEに限らず、あらゆる諸活動についても）実施できるとはいいがたい。学びは人との触れ合いや相手の反応が直に感じられるからこそ、楽しくもあり苦しんだり悩んだりもする。制約を乗り越えるための学びとは何か今回の発表の見どころである。

見どころ①：実社会を直視する実践～新聞での報道が今を投影していることを学び取る

日本全体でコロナウィルスが蔓延している中、私たちに必要とされる情報リテラシーの第一前提は、実社会で起きていることを知り、様々な情報から必要な知識を学ぶことである。

今回の分科会では、**国分寺市立第五小学校、文京区立関口台町小学校の実践**は、社会の有意な形成者となるべく一歩として、今、社会で何が起きているかを知るきっかけづくり、そして現時点で思い描く小学生の純粋な意見を引き出すレディネスを作り出されている。初めて社会を学ぶ経験を積んでいく小学生へどのように教えていくかのヒントがちりばめられている。

見どころ②：新聞の報道を「自分ごと」としてとらえる実践

周知の通り、コロナウィルスの問題は、我々と異なる地での報道ではなく、今私たちの身近で起きている「自分ごと」の問題である。だからこそ、他人事としてとらえ、客観的な解釈のみで学び終えるのではなく、常に「自分ごと」として物事を見つめる力が問われてくるのである。**世田谷区立船橋**

希望中の実践は、コロナウィルスの関連記事を追うことにより、自分の身に降りかかった際の対処、未然の防止策を常に現場にいる気持ちで学び続ける必要性を生徒たちに働きかけている学習である。

見どころ③：世界とのつながりにも目を向ける実践

今日の日本が、世界との関わりなしに生きていくことが困難であることは言うまでもない。また、私たちの身近には多様な人種、民族が混在していることも、当たり前の日常である。ところが、異文化理解は依然として学校教育の中では不十分なままである。日本国籍を有する者、また日本に移住している外国籍の人々も異文化とのつながりを体感する教育実践は必須の取り組みではないだろうか。そのような中で、**田柄高校の実践**は、異文化理解の一助を提案する内容である。外国籍の生徒が多い特性を活かし、日本文化の理解、外国籍から見る日本の歴史の在り方、課題等を学ぶことで、国際交流のきっかけづくりができるはずである。

安田女子高等学校 社会科

池田 昂樹先生

ジェームズ・キャメロン監督の映画の一つに「ターミネーター」という作品がある。内容は、人工知能が人類を敵と見なしたことで、人類を絶滅に追い込もうとするものである。2020年現在、インターネットの普及やAI技術の向上によって、我々の生活は非常に便利になった。その一方で、我々はAIが苦手とする思考力・判断力・表現力といった力をより高めることが求められている。このことについて、第25回NIE全国大会（日本NIE学会と共同シンポジウム）での議論を踏まえて以下に述べる。

真山氏は、ウィズコロナ時代の教育について、学校は社会に出るための一つの準備であり、NIEについて言えば様々な子どもが同じ新聞記事を読み、考えることが社会性に繋がると指摘している。NIEにも様々な形態があるが、例えば、陸奥賢氏によって考案された回し読み新聞は、数人が模造紙に自分が気になった新聞記事を貼り付け、新聞のタイトルや色使いについて数人が話し合いを通して決定する。これは、創造性や思考力や表現力を養う上で非常に効果的である。真山氏が指摘する通り社会性の育成においても大きく影響するだろう。では、昨今よく耳にするオンライン授業を通して社会性を養うことは可能であろうか。

私が春に行ったオンライン授業の印象としては、対面授業よりも積極的な発言が増えていたように思う。これは、他の生徒に知られずに自分の意見を教員に伝えられることが影響しているように思われる。真山氏は「日本人が苦手な、様々な答えを認めるというヒントにNIEはなるのではないかと述べているが、オンラインを通じたNIEが普及することも、対面のNIEとは異なった良さが生まれ、様々な答えを認めるヒントを得ることができるのではないかと考える。例えば本杉氏は全国紙と地域紙の比較を通じたNIEについて述べていたが、異なる地域の生徒をオンラインで結ぶことで、さらに多様性を尊重する心を育むようなNIEができるのではないだろうか。

また、本杉氏のNIEにロールプレイという手法を取り入れるという実践についても非常に興味深く感じた。これは、新聞記事を通して社会的な背景を学習し、その上で実際に自分が当事者の役割を演じるロールプレイを通して他人事を読んでいた新聞記事があたかも自分事のように読むことができるようになるというものである。先述したとおり、インターネットの普及やAI技術の向上が顕著である現代においては、思考力・判断力・表現力といった力を高めることが求められるが、高めたの

みで終わりではない。高めたこれらの力を社会に向けて発信する態度を育成する必要がある。新聞記事について自分事のように考える姿勢は、教育基本法でも述べられているような平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を育成する上でも重要な視点であると考えます。また、主権者教育や消費者教育の充実が求められていることに鑑みても、社会的事象を自分事のように受け取る姿勢を育成することは非常に重要なものだといえるだろう。

水木氏は、最後に「NIEは教師を育てる。社会から教材を拾ってくる。様々な情報が錯綜しているなかで、NIEは大切」だと述べている。教育の目的が、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質の育成にあるのであれば、まずは教員が常に社会に目を光らせておくことが大切であり、NIEはこれを実現する上で非常に大きな役割を与えるものだと考える。今回の全国大会からは様々なことを学ぶきっかけとなり非常に勉強になった。大会運営に関わった全ての方々に深くお礼を申し上げます。

日本新聞協会 NIE アドバイザー・安田女子高非常勤講師 堤 隆一郎先生

今回の全国大会は、始めて「集まって参加する」のではなく「個々に参加する」といオンライン大会でした。

NIEは、「個々に」新聞記事に直面し、その後「集まって」学び合う形が基本なので、今回の全国大会は、「個々に」参加した内容をどう「集団」に返していくかが大切な大会であったと思います。

昨年の私にとって、毎日の生活で「まずニュースを」と考える場面が多かったのが、「新型コロナウイルスの感染拡大」と「アメリカ大統領選」をめぐるニュースでした。この二つのテーマは展開が早く、まずネットかテレビのニュースで出来事の概要を知りますが、ここまでではそのニュースがどんな意味を持つのか理解できません。そこで、その出来事の様々な側面と、その出来事の持つ意味についてのコメントや解説を複数の新聞を読み比べるなかで考え、自分のなかの認識を組み立てていきました。そして、授業の導入として使用した新聞記事が、予想以上に生徒の学習への関心を喚起することができた事例もありました。新聞を読むのは「個人」ですが、その内容は「集団で共有できるものである」ということを、危機の時代だからこそ、その必要性を再認識した次第です。

私は旅行に行くと、必ず地元紙を購入して読み、東京や大阪に本社を置く全国紙とは異なった切り口や内容の記事を読むのを習慣としています。最近、県立図書館などで各地方紙が読めるだけでなく、各新聞社が新聞紙面そのものをオンラインで読めるようにしてきているので、目的とする記事の隣に気づかなかったニュース記事を見つけて、思考を広げることができるようになってきています。「遊びにこそ学びがある」と言いますが、「新聞紙面にこそ学びがある」と、今回全国紙と地方紙を毎日のように比較読みしながら実感できたことは、新型コロナ感染拡大という危機がもたらしてくれたことです。

「新型コロナ感染が終われば元に戻る」と言われますが、人類が未経験のグローバル化と地球温暖化という地球上の大きな変化が進むなか、今回の経験を次に来る危機に生かすことができるよう、NIEの学びを継続していくことの重要性を再認識させられた全国大会でした。